

株式会社 ジャパン
エコノミックパルス

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町

2-33-5

Tel 03-5962-3910

Fax 03-5962-3913

www.j-pulse.co.jp

info@j-pulse.info

Market Insight

2025年11月10日（月）

「陶醉は敵」調整波乱の過熱「AI相場」

MIT衝撃レポート「生成AI導入企業95%投資効果ゼロ」

マサチューセッツ工科大学(MIT)が8月に発表した衝撃レポートの余震が続く折、米大手ヘッジファンド「シタデル」創設者ケン・グリフィン氏が、「多くの主要市場で強気相場が非常に深いところまで進んでいる」と過熱AI相場に警鐘を鳴らす。「投資の神様」ウォーレン・バフェット氏の名言「ユーフォリア(陶醉)は敵、悲観は友」が11月相場の波乱を物語るようだ。

驚愕「売り帝王」ポートフォリオ8割パランティア売り

「生成AIへの企業の投資は300-400億ドルに上るが、驚くべきは95%の組織がゼロリターンに陥っている」。マサチューセッツ工科大学(MIT)が8月に発表した『生成AIの格差:2025年ビジネスにおけるAIの現状』と題する衝撃レポートは、300件を超えるAI導入事例を分析、52の企業等の代表者と4つの業界の153人のリーダー職にインタビューしてまとめた結論であり、「多くのAI導入プロジェクトは、実証実験的な段階で行き詰まっており、個人の生産性を向上させてはいるが、組織の利益には結びついていない」と喝破した。

所期の目標を達成できない理由を探るため、調査は、対象者に目標達成の障壁になるものを1-10の尺度で評価してもらった(10が最も頻繁に遭遇する障壁を表す)。結果、「新しいツールを導入したくない」が頻度9と、新しいツールへの抵抗感が最大の障壁であることがわかった。

むろん、これはある程度予想されていたというが、意外だったのは、「導入したAIモデルの品質に関する懸念」(約75)であった。品質への不信は、つまりAIへの不信であり、生成AIに特有のハルシネーション(もっともらしい誤情報)など回答に虚偽が混じることを連想させかねない。調査によると、「ChatGPT」やCopilotといった一般向け生成AIの利用率は高く、つまりここで言う「品質に関する懸念」とは、各企業が自社ビジネス向けに導入した高額AIに向けた懸念である。例えば、法律事務所の女性弁護士は、契約書の作成作業に事務所が5万ドルを投じた専門AI契約分析ツールは利用せず、一貫して「ChatGPT」を使っているという。

「月額20ドルの汎用ツール(ChatGPT)が、桁違いに高価な特注の企業システムよりも、使いやすさとユーザー満足度の点で優れたパフォーマンスを発揮することが多い」(MITレポート)と高額ツールが「宝の持ち腐れ」になっていると明かす。

一方、ある米系ヘッジファンド幹部によれば、「ポートフォリオの8割をパランティアのプット・オプションに掛けるという投資判断は並大抵のことではない。正に命懸けの腹の座った投資行動であり、何か重大な事実を掴んでいなければいけない覚悟の売りだろう」とされる。

「覚悟の売り」とは、映画『The Big Short(ビッグ・ショート) 邦題「マネー・ショート 華麗なる大逆転」』のモデルで著名投資家のマイケル・バーリ氏率いる米運用会社サイオン・アセットの25年7-9月期におけるエヌビディアとパランティアのプット(売る権利)オプション取引である。

当然、バーリ氏はMITが8月に発表した『生成AIの格差:2025年ビジネスにおけるAIの現状』と題する衝撃レポートを精読した上での米巨大テック「Magnificent 7(壮大な7銘柄)」の過熱「AI相場」への挑戦であろう。

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパン
エコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送
は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル
TEL (03) 5962-3910 FAX (03) 5962-3913
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL http://www.j-pulse.co.jp
発行責任者: 上坂 郁 編集長: 原田 祥二

もともと、「精神科医の異端投資家マイケル・バーリ氏の不均衡を突いた売り仕掛けは早すぎるのが難点である」(ある米系ヘッジファンド)という。2007年夏のババ・ショックから2008年秋のリーマン破綻に至る世界金融危機時も2年前からポジションを仕込み、投資の果実を得るまでに地獄のような日々を送っている。

正義の味方バットマンを演じて一躍スターダムに上り詰めたクリスチャン・ベールのファンである筆者も、豪華キャストで話題を呼んだ映画『The Big Short』をロードショーと動画配信で数回拝観し、改めて精神科医マイケル・バーリ氏の勝負師としての資質、物事の本質を見抜く眼力、不均衡を突き動かす精神力などに感嘆し切った記憶が新しい。

むろん、パランティアのPER(株価収益率)は既に400倍という「持続不能」の超割高にあり、ファンタメンタルズとは無関係の異次元世界でリーマン危機を知らないZ世代など株式中毒の若者たちのユーフォリア(陶酔感)買いに急騰し史上最高値を更新し続けている。11月3日発表の25年7-9月期決算でパランティア・テクノロジーズの1株あたり利益(EPS)は予想を上回る好調な内容だったが、400倍のPERという超異常事態に永続性など微塵もないことはバーリ氏でなくともわかっている。

「一目均衡表」基準線4万4746円への深押しリスク

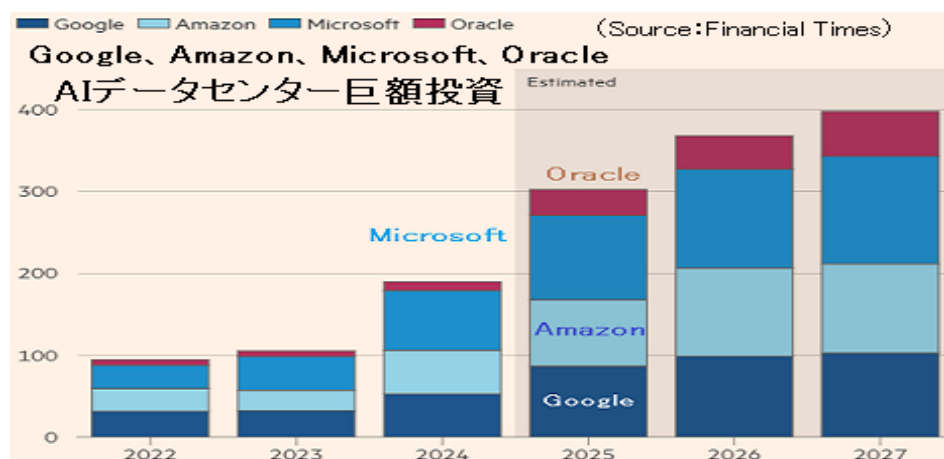
ある国際金融筋によれば、「AIの普及に疑念を抱かせるMITの衝撃的な報告をよそに、AIサービスを供給する巨大テック企業の勢いは止まらない」とAI過剰投資に警鐘を鳴らす。

時価総額が初の5兆ドル(約750兆円)に達したAI半導体最大手エヌビディアのジェイスン・フアンCEOが9月22日、米オープンAIのサム・アルトマンCEOと共に会見し、人類の知能を上回る「超知能(AGI)」実現に向けオープンAIに最大1000億ドル(約15兆円)投資すると発表した。さらに、エヌビディアはAGI向けインフラ構築投資として新たに10ギガワット(ギガは10億)規模のデータセンターを建設、「AI覇権」争いが激化している。

そもそも「AI覇権」争いは、年初にソフトバンクグループ(SBG)、米IT大手オラクル、オープンAIの3社が打ち上げた4年間5000億ドル(約74兆円)のAI向けインフラ投資計画「スターゲート」が端緒となった。だが、スターゲートを主導したSBG孫正義会長兼社長のAI収益の試算600兆円が余りに壮大すぎて金融市場や半導体業界の反応が「孫一流のハッタリ」と受け止められた。

それでも孫氏は「スターゲート」計画で米国内5ヵ所にデータセンター建設を豪語、驚くなかれ、エヌビディアのフアン会見の翌9月23日にSBG、オラクル、オープンAI連合はテキサス州アビリーンとオハイオ州ローズタウンにそれぞれAIインフラ投資としてデータセンターを建設中と言明した。エヌビディアと「AI強者連合」を組むオープンAIの対話型「チャットGPT」高性能モデルへの進化に多くの学習データが必要であり、当然、計算量が膨大となるためデータセンターの新設が急務となっているのだ。

そこにラリー・フィンクCEO率いる資産1800兆円の世界最大の資産運用会社ブラックロック傘下のインフラ投資専門グローバル・インフラストラクチャー・パートナーズ(GIP)主導の米マイクロソフト・アブダビ首長国の投資会社MGX連合が10月下旬、米データセン



ター事業会社アラインド・データセンターズを400億ドル(約6.2兆円)で買収、IT業界を驚かせた。

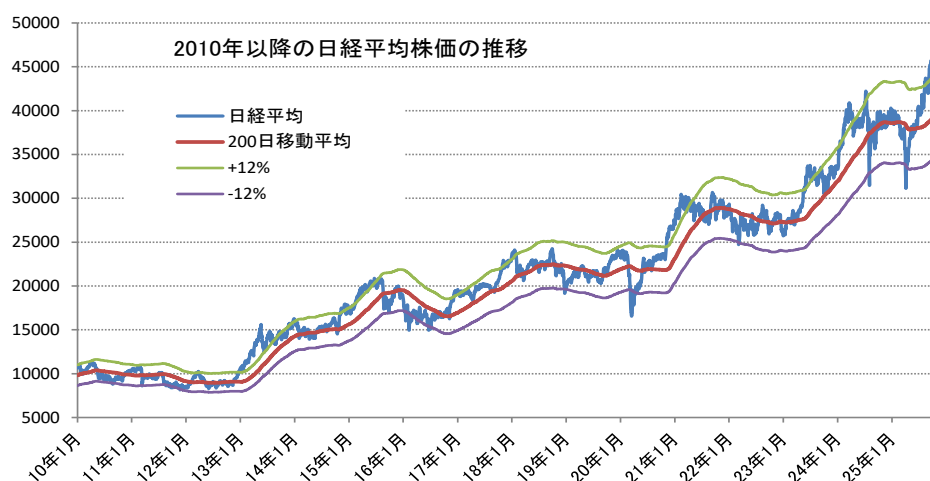
そして、豊富な資金を抱えるGIPは、AIデータセンターに不可欠な膨大な電力を賄うべく米電力大手AESの買収交渉を進めている。

むしろ、問題は天文学的なAI投資が回収できるかであり、需要側がAIサービスに消化不良を起こしかけている一方で相次ぐ巨大プロジェクトが供給過剰を招かないか、「AIバブル論」となって懸念されつつある。

既に、香港中銀「香港金融管理局(HKMA)」主催の「世界金融リーダーズ投資サミット」11月5日に登壇した米大手ヘッジファンド「シタデル」創設者ケン・グリフィン氏が、「多くの主要市場で強気相場が非常に深いところまで進んでいる」と株高ユーフォリアに警鐘を鳴らし、4日には米金融大手ゴールドマン・サックスのデービッド・ソロモンCEOが「米テック株のバリュエーションが高い。今後12-24カ月の間に株式市場は10-20%下落する可能性が高い」と警告を発した。

週末11月6日の東京株式市場、アドバンテストとソフトバンクグループ(SBG)の2銘柄で日経平均を630円ほど押し下げた。SBG株は一時10%安となり10月29日に付けた株式分割考慮後の高値2万7695円から20%超下落し「弱気相場入り」が不安視される。米オープンAIのサラ・フライアCFO(最高財務責任者)が5日の米紙WSJ主催イベントで「現時点で新規株式公開(IPO)は選択肢にはない」と述べオープンAIの企業価値拡大の期待剥落を意識した売りが「日本のAI株の代表」SBG株に噴出した。既に、AI関連株の上昇が牽引する形で10月の日経平均は16.6%高と1990年(10月20.1%)以来35年ぶり大幅な上昇率を記録した。

行き過ぎた上昇に伴う反動安が懸念される日経平均は、11月4日高値5万2636円で短期的な天井打ち、日足「一目均衡表」基準線4万8497円、「50日移動平均」4万6495円、「13週移動平均」4万6149円、4万6544円(10月14日)の「窓埋め」4万5852円、状況次第で週足「一目均衡表」基準線4万4746円水準への深押しリスクが警戒される。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。